

05. 無人のブランコが大きく揺れていました

土屋恭子 55歳 会社役員 所沢市美原町在住

- どこに誰といましたか。

仕事先のオフィスから銀行回りに出かけ、御徒町の多慶屋の傍にいました。目の前の首都高速道路が揺れ、電線が大きく揺れているので近くの公園に行きました。人がどんどん増えてきました。誰も乗っていないブランコが大きく揺れているのが印象的でした。携帯が通ぜず状況が分からなかったところ、ワンセグを持っている人が東北で大きな地震があったようだとっていました。40分ほど経ち、揺れがおさまり、寒くなってきたので、9階のオフィスに戻りました。部屋の中は、モノが散乱していましたが、PCなどの機器類は無事でした。同僚ととりあえずモノを片付けたり、家族や知り合いに連絡を取ろうとしたりしました。携帯も固定電話も使用できませんでしたが、PCメールが使えたので家族と連絡が取れ、夜までオフィスに待機していました。

- どのように自宅に帰りましたか。

所沢市までは帰れないので、墨田区に住む姉の家へ歩いて行きました。20時ごろオフィスを出て、40分ほどで着きました。娘は勤め先の会社がタクシー代を払ってくれ、同僚と研修先の西葛西から6時間かけて午前3時ごろ帰宅。3万円ほどとか。

- 自宅では何か起こっていましたか。

鉄筋11階建マンションの9階ですが、とくに変わったことはありませんでした。愛犬は1人でいたわけですが、変わった様子はなかったようです。

- 最後にひとこと。

地震が来る、来る、といわれていたので、「ついに来たか」というところ。パニックにもならず、自分でも何と冷静なんだろうと思いました。夫は地震を境に、「断・捨・離」を実行しています。つまり、いらぬモノ、不要不急のモノを片付け、捨て、遠ざけるという意味で、せっせとやっています。私は、職場にスニーカーを置くなど、いざというときの備えをしています。

2011年6月17日